

社会－１（地理的分野） 様々な事象の地図を重ね合わせ、関係性を読み取り話し合う事例
【学習活動の概要】

1 単元名 コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう。													
2 単元の目標 「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」という学習課題を解決するために、身近な地域の様々な事象の分布図をつくり、それらの関係性について追究し、判断する活動を通じて、地図から読み取る力を育てるとともに、情報の集め方、まとめ方、表現の仕方、さらに地理的な見方や考え方について、協同して追究できるようにする。													
3 単元の評価規準 【社会的事象への関心・意欲・態度】 ・身近な地域の調査に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、とらえようとしている。 【社会的な思考・判断・表現】 ・作成した地図を見当を付けながら重ね合わせることで、関係性を見だし、表現している。 ・自ら見いだした事柄について、自分自身の解釈を加え、説明している。 【資料活用の技能】 ・集めた情報を取捨選択し、表現の仕方などに注意を払いながら地図を作成している。 【社会的事象についての知識・理解】 ・地域の特色とともに、地域の様々な事象に関係性があることを理解している。													
4 単元の概要 本単元は、新学習指導要領社会科地理的分野の「(2) 日本の様々な地域」の「エ 身近な地域の調査」を指導内容として構成したものである。 本単元では、「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」という問いを学習課題として設定し、身近な地域(学区)のコンビニエンス・ストアの分布図と、調査で明らかになった様々な事象をまとめた分布図を、地理情報システム(GIS)を利用して重ね合わせた。重ね合わせた分布図の関係性を探り、地域の特色と情報の活用等について、協同して追究することができるよう構成した。GISを利用することで、作業時間が短縮され、重ね合わせの試行錯誤が簡便になる良さを生かし、利用する情報や見いだした事柄の検討など協同して話し合う場面を多く設定した。													
5 主な学習活動 (1)単元の展開 (全5時間)													
	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>学習活動</th> <th>言語活動に関する指導上の留意点</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第一次</td> <td>「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」、その条件について、実際の分布図を基に、話し合い、予想する(0.5)。</td> <td rowspan="4"> <ul style="list-style-type: none"> ・すぐにコンピュータを使って試行錯誤させるのではなく、資料に基づいて、仮説の見当を付けてから行わせる。 ・コンピュータのデータ上だけでなく、日常生活での観察や経験も生かすように促す。 ・重ね合わせた分布図から自分が読み取ったことや、そう考えた根拠をはっきりと表現しているかどうかを確認させる。 </td> </tr> <tr> <td>第二次</td> <td>「第一次」の分布図を基に関係がありそうな事象について調べ、分布図をつくる(2.5)。</td> </tr> <tr> <td>第三次</td> <td>実際のコンビニエンス・ストアの分布図と「第二次」で作成した分布図を重ね合わせ、その関係性について自分の考えを表現し、話し合う(1)。</td> </tr> <tr> <td>第四次</td> <td>「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」かを地図上に示し、生徒自身がそう考えた理由を表現し合い、条件について話し合う(1)。</td> </tr> </tbody> </table>		学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	第一次	「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」、その条件について、実際の分布図を基に、話し合い、予想する(0.5)。	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐにコンピュータを使って試行錯誤させるのではなく、資料に基づいて、仮説の見当を付けてから行わせる。 ・コンピュータのデータ上だけでなく、日常生活での観察や経験も生かすように促す。 ・重ね合わせた分布図から自分が読み取ったことや、そう考えた根拠をはっきりと表現しているかどうかを確認させる。 	第二次	「第一次」の分布図を基に関係がありそうな事象について調べ、分布図をつくる(2.5)。	第三次	実際のコンビニエンス・ストアの分布図と「第二次」で作成した分布図を重ね合わせ、その関係性について自分の考えを表現し、話し合う(1)。	第四次	「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」かを地図上に示し、生徒自身がそう考えた理由を表現し合い、条件について話し合う(1)。
	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点											
第一次	「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」、その条件について、実際の分布図を基に、話し合い、予想する(0.5)。	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐにコンピュータを使って試行錯誤させるのではなく、資料に基づいて、仮説の見当を付けてから行わせる。 ・コンピュータのデータ上だけでなく、日常生活での観察や経験も生かすように促す。 ・重ね合わせた分布図から自分が読み取ったことや、そう考えた根拠をはっきりと表現しているかどうかを確認させる。 											
第二次	「第一次」の分布図を基に関係がありそうな事象について調べ、分布図をつくる(2.5)。												
第三次	実際のコンビニエンス・ストアの分布図と「第二次」で作成した分布図を重ね合わせ、その関係性について自分の考えを表現し、話し合う(1)。												
第四次	「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」かを地図上に示し、生徒自身がそう考えた理由を表現し合い、条件について話し合う(1)。												
(2)本時の学習 (4・5/5時間)													
	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>第三次</td> <td> <p>「コンビニエンス・ストアは実際どんなところにあるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンス・ストアの分布図といろいろな事象の分布図を重ね合わせて、関係性について考える。 ・「関係がありそうなもの」と「なさそうなもの」の見当を付けながら考える。 </td> </tr> <tr> <td>第四次</td> <td> <p>「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が読み取ったことをワークシートに記入し、自分の言葉で表現する。 </td> </tr> </tbody> </table>	第三次	<p>「コンビニエンス・ストアは実際どんなところにあるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンス・ストアの分布図といろいろな事象の分布図を重ね合わせて、関係性について考える。 ・「関係がありそうなもの」と「なさそうなもの」の見当を付けながら考える。 	第四次	<p>「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が読み取ったことをワークシートに記入し、自分の言葉で表現する。 								
第三次	<p>「コンビニエンス・ストアは実際どんなところにあるのか」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンビニエンス・ストアの分布図といろいろな事象の分布図を重ね合わせて、関係性について考える。 ・「関係がありそうなもの」と「なさそうなもの」の見当を付けながら考える。 												
第四次	<p>「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分が読み取ったことをワークシートに記入し、自分の言葉で表現する。 												

【解説】

【指導事例と学習指導要領との関連】

中学校学習指導要領の第2章第2節社会第2〔地理的分野〕の2において、(2)エ「身近な地域の調査」が示され、また3(2)アにおいて、「地域に関する情報の収集、処理に当たっては、コンピュータや情報通信ネットワークなどを積極的に活用するなどの工夫をすること」が示されている。

本指導事例のねらいは、「コンビニエンス・ストアをどこにつくればよいだろう」を学習課題として設定し、身近な地域の調査結果を、簡易なGISを利用して、地図にまとめ、重ね合わせることで、関係性を探る過程を通して、情報の取捨選択、表現の仕方をも視野に入れながら、地域の特色と情報の活用等について、協同して追究することである。GISを利用することで、作業時間が短縮されることを生かして、利用する情報や見いだした事柄の検討など話し合う場面を多く設定した。(なお、本事例では、簡易GISソフトを使用した。)

【言語活動の充実の工夫】

① 様々な事象を重ね合わせて、関係性を探す場の設定

図1のように、実際のコンビニエンス・ストアの分布図といろいろな事象の分布図とを重ね合わせて、その関係性を考える活動では、意識的に関係がありそうなものと、なさそうなものを見当を付けながら作業を行わせた。関係がありそうなものとして、「駅、バス停、スーパー、人口、人口密度、10～14歳の子ども数」など、関係がなさそうなものとして、「学校、ポスト、公園」などが挙げられた。そこで、「〇〇スーパーと△△コンビニのところはどうなっているのか」など、具体的な場所について質問し、PC上で自ら見いだした事柄を、実際の場面を思い浮かべながら説明させた。生活感も大切にしながら、話し合い、関係性について焦点化させていった。

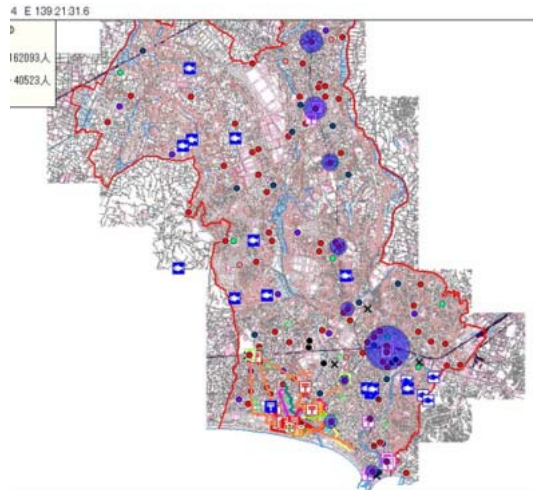


図1 複数の分布図の重ね合わせ

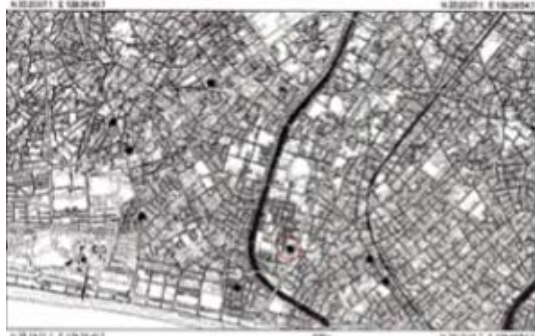
② 使用した情報を検討し、見方・考え方を深める話し合い

「コンビニエンス・ストアがあるところ？ もちろん、人通りが多いところだよ」というように、生徒は普段の生活の中の印象を一番に話す。しかし、「人通りの多い」道と「コンビニエンス・ストア」を重ねた地図を見比べているうちに、人通りが多くてもコンビニエンス・ストアがないところ、また人通りが少なくても「ある」ところに気付いていった。そして、「『人通りが多い』と言っても、コンビニエンス・ストアを利用する人が多いかどうか分からない」と、「人通りが多い」道についての吟味をし始め、「人通りが多い」時間帯や、道路通行者の年齢層、通学路と自動車道や商店街の街路の違いなど、情報の質に注目し、見方や考え方を深めていった。

③ 地域の特色の理解を深める話し合い

図2のようなワークシートを用いて、「コンビニエンス・ストアをつくるとしたらどこがいいか」を地図上に示させ、そう考えた理由をまとめさせた。生徒は、「大きな通りだし、大学生の通学路である。また多くの人々が駅に行くのに通るから」など具体的に理由を挙げ始め、「十字路で元々人通りが多いし、それに海に行く途中の道なので、夏には海水浴へ行く人でにぎわうと思う」など季節の違いなどの指摘もし始めた。時間帯や道路通行者の年齢層などに加えて、季節など様々な条件も話し合われ、議論が深まり、地域の特色が徐々に浮かび上がっていった。

① 今日、もしあなたがこの地域に初めてコンビニエンス・ストアを開くとするならば、どこにお店を開きますか。地図中に〇印をし、その理由を書きなさい。



理由) バス停の近くにあるからバスから降りる人とかが買い物きた。でも、7日スーパーがあるから客がとられてしまうのがダメかも。駐車場が、ここの広いから車を来られた。

② 作業をしているとき、あったらいいなと思った資料、また、こんなものの分布を関連付けて調べてみたいと思ったものがありましたか。あれば、それを書きなさい。

図2 ワークシートの例

なお、本事例については、平成22年度国土交通省国土計画局「G空間EXPO 初等中等教育におけるGISの活用事例」にも掲載されている。現時点、同局のHPに掲載予定であり、GIS活用の詳細については、そちらを参考にしてください。